

道 厳しい指摘

北海道新聞の報道について、社外の委員に提言してもらった本年度2回目の「読者と道新委員会」が11月27日、札幌市中央区の道新本社で開かれた。朝鮮人女性を従軍慰安婦として強制連行したという「吉田証言」を取り上げた記事について本紙がおおむね取り消した経緯を加藤雅規編集局長が5人の委員に説明し、意見を聞いた。また、北電の再値上げ報道をめぐっても議論した。

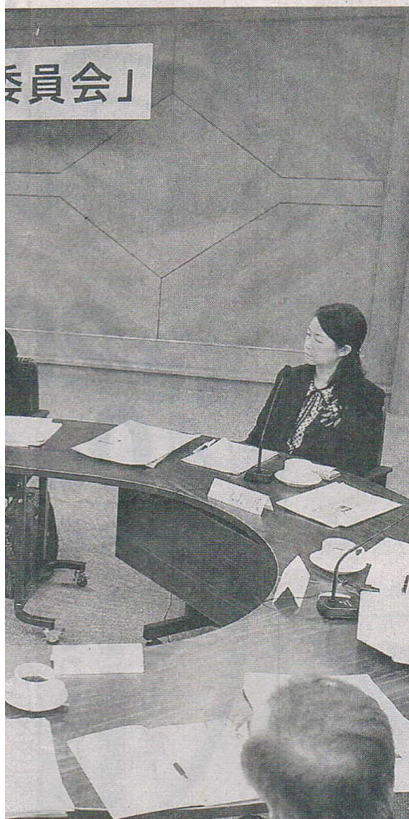
読者と道新委員会

「吉田証言」記事取り消し

加藤編集局長 8月に朝日新聞が特集を掲載し、「吉田証言」記事を取り消した。それをきっかけに、私たちの記事がどうだったかを調べた結果、裏付けるものは見つからなかった。信ぴょう性が薄いと言わざるを得ないと思う。だとすると、吉田証言、それを取り上げた記事をもとにして、これ以降、北海道新聞として何かを書いたりすることとは難しいという判断に至った。読者に自信を持って参考にしてもらうこともできない。取り消すべきだと考えた。

最初の記事を掲載したのは1991年11月だ。92年には、この証言に疑義が示されている。気づくチャンスはそのときからあったと言えるが、その後、きちんとした対応はなかった。92年1月に日韓首脳会談が行われた。当時の官房長官や首相が慰安婦問題で謝罪し、政府の調査結果も出された。吉田証言によらずに、慰安婦問題について報道していく流れができていたといえる。

とはいえ、最初の記事を長い間そのままにできたことは変



委員と読者をつなぐ「読者と道新委員会」

「読者と道新委員会」委員

(五十音順)

- ・江口尚文氏 (えぐち・なおふみ)
＝旭川大経済学部教授、旭川市
- ・大島寿美子氏 (おおしま・すみこ)
＝北星学園大文学部教授、札幌市
- ・折谷久美子氏 (おりたに・くみこ)
＝NPO法人スプリングボードユニティ21理事長、函館市
- ・坂口唯彦氏 (さかぐち・ただひこ)
＝弁護士、札幌市
- ・曾根一氏 (そね・はじめ)
＝建設会社「ネクサス」社長、帯広市

不明瞭 坂口氏
鈍る 大島氏
放置 江口氏
必要 曾根氏
紙面を 折谷氏

わからない。特集記事でノンフィクション作家の半藤一利さんから、戦時中のことについて一定の下調べをすれば、ここは不自然と気づいたはずだとの指摘を受けた。証言に疑義が示された

ときに、証言内容を否定する見方もあるというのを紙面でフォローしていれば、とも思う。事後の対応も行き届いていない。不十分と言われてもやむを得ないと厳しく受け止めていた。

る。今回、信憑性を取り消すの応が遅れたことしなければならぬ。検証では記や韓国の関係は聞いた。他社が北海道新聞もすらない。ソウルのことを知ある人、学者コミ関係者らね、その結果判断するか検ことに予想以上

度めどが立つに紙面化するに始めた。

11月17日にの特集が掲載やメールで読した。多くは変重判断を言葉以上に重なる。情報を報じるといって徹底できるよみ立て直して

坂口唯彦委員「吉田証言」上げた点は潔だが、見開きだときは、記